

実践④ 鹿児島県立指宿高等学校

1 はじめに

指宿高等学校は薩摩半島の最南端に位置する指宿市にあり、大正11年に創立、96年目を迎える伝統ある高等学校である。各学年3クラスずつあり、生徒数は270人の普通科高校である。「自主・好学・向上」の校訓のもと、勉強 や部活動はもちろん学校行事にも積極的に参加し、高校生活を有意義に過ごしている。2016年度に「子どもの読書活動推進優良校」受賞、2018年度に「子供の読書活動優秀実践校文部科学大臣表彰」を受賞した。図書館の蔵書冊数は31,633冊、一人平均貸出冊数は12.6冊（2017年度）である。



【季節に合わせた館内展示】

2 活動指針

読書センター、学習センター、情報センターとしての機能の充実を柱に読書会（ビブリオバトル・クリスマスコンサート）、小論文対策特設棚の充実、授業利用・調べ学習における資料の公共図書館相互貸借利用を行っている。朝読書は1999年から取り組んでおり、いつも身近に本がある状況が設定できている。地域との連携として、近隣の小学校との学習交流会（おはなし会）にも取り組んでいる。

3 具体的な取組

(1) ビブリオバトルの継続的取組

本校図書館では、2014年からビブリオバトルに取り組んでいる。県立図書館での講座内容を図書委員に還元し、図書委員が積極的に取り組むところから始めた。

- ・ 2014年12月 「本と楽しむクリスマスコンサート」の読書イベントとして導入
- ・ 2015年 7月 「鹿児島県高校生ビブリオバトル大会」の予選会
8月 「第1回鹿児島県高校生ビブリオバトル大会」優勝、全国大会出場
10月 「秋の一斉読書会」各クラス代表者による発表
12月 「本と楽しむクリスマスコンサート」秋の一斉読書会クラスチャンプ（1・2年生のみ）による校内決勝戦
- ・ 2016年からは6月の文化祭でもステージ発表を行い、保護者や一般の方へもビブリオバトルをアピール。2年生文系クラス現代文授業でも予選・決勝に分けて開催。
- ・ 2017年には8月に生徒会主催の中学生体験入学において、模擬ビブリオバトルを披露。
- ・ 2018年には7月に「全校一斉読書会」でクラスごとに予選・本選を行い、全校生徒による発表を行う。2019年1月の柳田小学校との交流学习会では、小学1年生58人を対象に絵本でのミニビブリオバトルを開催。



【校内ビブリオバトルの様子】

◎ ビブリオバトルは様々な形態で行うことが可能で、深い読書体験へとつながる。

(2) 本と楽しむクリスマスコンサート

日頃、図書室にこない生徒・先生を図書室に呼び込む取組として、12月の終業式後に吹奏楽部と毎年図書館で開催している読書会である。2015年からは有志と一緒に「音楽付き絵本の読み聞かせ」にも取り組んでいる。演奏会終了後、校内ビブリオバトル・本に関するクイズ大会を実施している。



【クリスマスコンサートの様子】

(3) 地域との連携～「向上の道プラン」小学校での交流学習会（おはなし会）～

センター試験終了後、進路の決まった3年生による近隣の小学校での交流学習会としてのおはなし会に取り組んでいる。おはなし会に向けての準備（ペーパーサートや小物作り）、練習を本校図書館で行っている。準備期間は約2週間である。



【小学校での交流会の様子】

(4) その他の取組

- ・ 朝読書（月曜～木曜SHR前の10分間、金曜は朝コラム）
- ・ 各学級への学級文庫の設置（学期ごとに入替え）
- ・ 出張図書館（3学年への小論文対策、1～2学年へのブックデリバリー）
- ・ 図書委員活動（図書館だより掲載の四コマ漫画作成、お薦めの本の帯やPOP作り、先生方お薦めの本の紹介原稿依頼、文化祭古本市出店、西郷どんクイズ開催）
- ・ 小論文対策特設棚設置（「小論文を書くために読んでおきたい本」や「論文入試対策」を参考に設置、新書の充実）
- ・ 秋の一斉読書会
- ・ 授業利用（国語科、理科、家庭科等）
- ・ 年間100冊多読者表彰とブックカバーの進呈



【ブックデリバリーの様子】



【小論文対策特設棚】

4 おわりに

イベント開催が多く、大変なこともあるが、最初にビブリオバトルを始めた生徒の「このイベントをずっと指宿高等学校図書館で続けてほしい。」という言葉が強く印象に残っている。ビブリオバトルには人を動かす力がある。生徒同士で本を薦め合うことのできる素晴らしい読書会であると感じている。

ビブリオバトル・本と楽しむクリスマスコンサート・向上の道プランを体験した生徒たちが、これからの社会に羽ばたいて活躍することを切に願う。